

2012. 6. 25

No.172

編集・発行人 樋口みな子

E-mail minginga@agate
.plala.or.jp
メール配信希望の方はご連絡
ください。
郵便振替「銀河通信」
02740-7-56535
(郵送6号分1,000円)



銀河通信が24周年に



新緑が目にしみる美しい季節になりました。庭のサクランボが、赤く色づき始めました。シジュウカラやヒヨドリにとっては恰好の餌場です。サクランボの背丈が私には丁度良くて、シジュウカラの姿に心がなごみます。

銀河通信が7月10日で24周年になります。山や自然の話

題ばかりでいいのだろうか？とペンが進まなくなること増えました。3.11の東日本大震災と、福島原発事故で、このまま黙ってはいられないという思いに突き動かされて、泊原発の廃炉をめざす会の活動にわり1年。私の周りに、原発NO！という人たちが増えました。自分の好きなことばかりするのではなく、子ども達に、原発に頼らない安心できる未来を引き継ぎたいと思います。話の下手な私には、書いて伝えることしか出来ません。私とは考え方や立場も違う人いると思いますが今後とも読んで頂けたら幸いです。

野田総理は国民の生活を守ると語って、大飯原発の再稼働を決めました。大江健三郎さんは「世界の目が向かっているときに再稼働すれば、なし崩しに突き進む。一つの再稼働が人類の歴史を決める」と批判しました。(新聞記事から)



5.31 塩谷丸山から積丹岳と余別岳を望む

5月に開かれた口頭弁論で、小野有五さん(地理学)は「泊原発のある積丹半島の西側には海底活断層があり、その連動で大地震が起きる可能性が高い」「泊原発周辺は波動が集中しやすい地形のため、巨大津波が発生しやすい。泊原発は一日も早く廃炉にすべき」と意見陳述しました。

3.11後、原発の危険性を全国各地の講演会で訴えている95歳の医師、肥田舜太郎さんは広島で被曝した体験を語りました。急患があったために、6km離れた所に往診に行きその晩を爆心地から離れた所で泊まり、奇跡的に助かったこと。当時の広島の原爆の怖さを語り続けている姿に感銘を受けました。6000人の被曝者を診察してきた肥田先生。低線量の内部被曝は長い間、問題にされることはなかったのです。しかし、検査をしても外見も普通なのに、激しい倦怠感で仕事が出来ず、誰からも理解されず自殺に追い込まれた患者さんも多くいたと語り、福島でも同じように苦しむ人たちが数年後には出てくると話されました。

インターネットや本からだけでなく、体験を聴くことの大切さを改めて教えていただきました。



撮影・阿部博子さん
6.10 夕張岳のユウパリコザクラ

銀河通信では心に残った言葉もお伝えできたらと思います。来年は25周年。まだまだ続きます。

みな子の山旅日記

展望の山 写万部山 499m



5.10 写万部山山頂で



5.10 フギレオオバキスミレ

山仲間 8人で5月10日、写万部山に登りました。

新札幌を7時半に出発し、長万部の写万部山登山口には9:50に到着。高速のおかげで、2時間半で道南の山に登れるのですね。

10:00 登山口を出発し。きれいに整備された登山道を辿るだけ。春の花、カタクリ、タチツボスミレ、キクザキイチゲ、フギレオオバキスミレ、シラネアオイなどを愛でながら登るとあっという間に頂上に。昨年登った黒松内岳も雄々しい姿を垣間みせてくれて、懐かしかったです。(道南の好きな山です)

早いランチタイムとし、12:00 下山開始。女性陣は竹の子採りを楽しんで登山口には12:40 でした。その後、黒松内のカタクリの群落があるという穴場?に出向き、お寺の境内のカタクリの大群落がすてきでした。ピンクの絨毯に、キクザキイチゲがまとまって咲いていて、オオバノエンレイソウも、ここは少し小ぶりでしたが可愛かったです。(下写真・カタクリの群落) 3日は深川のカタクリも見に行きましたが、今年の春はカタクリとサクラを満喫しました。



お寺の境内で

いにしへの濃昼山道を歩く

濃昼(ごきびる)山道は、以前から歩いてみたかったので念願が叶いました。5月19日、山道入口の標識から、細い急登を登ると笹刈りをした道になりみんなの目は、ウドに集中。さっぱり歩みは進みませんがウドを見つけるのが楽しかったです。ニリンソウ、タチツボスミレ、キクザキイチゲ、カタクリ、シラネアオイ、エゾノリュウキンカの鮮やかな黄色、オオカメノキの清楚な白、ヤマハタザオ、エンレイソウ、サクラソウ、たくさんの花が山を彩り、春の花を満喫しました。春紅葉の森が目にはやさしく、ヤマザクラもきれいでした。



撮影・仲俣善雄さん5.19濃昼峠で

濃昼山道は、江戸時代にニシン番屋の補給路として厚田の安瀬(ヤソスケ)～濃昼間の10kmの道路を開削したそうです。その後長い間廃道になっていましたが、地元「濃昼山道保存会」が復元しました。アイヌ語で安瀬(ヤソスケ)は小さな網で魚を捕る所 といった意味のようです。濃昼(ゴキビル)はアイヌ語でポキンピリといい水渦巻の意味だそうです。この岬と厚田領の岬の間に水の渦巻があったためとアイヌ語辞典にあります。

濃昼峠からは日本海の青さと右手に積丹の残雪の山々が海に浮かんで見えて、素晴らしい眺望でした。左手には恵庭岳も見えました。

山菜の天ぷら、野趣に富み美味しかったです。

タイムは山菜取りに時間を費やしたため参考にはなりません。記しておきます。

滝の沢側山道入口 7:38 ルーラン近く210m地点 10:20 濃昼峠 11:20 濃昼川側 山道入口 12:30



春紅葉が目にはやさしい濃昼峠

ユウパリコザクラの会が守った夕張岳 1668m

6月9日にヒュッテに前泊し、翌日夕張岳の登山道整備（ロープ張り）登山に参加しました。小雨の中登山口を6時25分出発。冷水の沢コースで登りました。ユウパリコザクラの会のメンバー15人に、地元企業の有志18人の大パーティです。馬の背コースとの合流点までは針広混交林の中を歩き、厳しい登りが続き、ようやく石原平に到着。シラネアオイが満開、サンカヨウも咲いていました。早速、ロープ張りをしました。石原平から少し歩くと木の陰にケエゾキスミレも咲いていて、いいタイミングに登れて幸運でした。石原平を超えると大きな雪渓が幾つか

コザクラの会のメンバーが用意してくれた流しソーメン。美味しくて山の疲れが吹き飛びました。



6.10
ナンブイヌナズナ



石原平のシラネアオイ



6.10
ユウバリソウ

現れ、憩沢もまだ雪に埋もれていましたが、雪は柔らかく、時々ズボッと埋まることはありましたが、登山靴で充分歩けました。

徐々にお花も多くなり、まだ深い雪に埋まっている崩壊地では、ユウパリコザクラ（1面の写真）が咲いていました。吹き通しまでは、花を愛でながらゆっくり写真を撮りながら進みました。吹き通しは珍しく風がなく、ユウバリソウやナンブイヌナズナ、ユウパリコザクラ、ユウバリキンバイ、ミヤマアズマギク、タカネグンバイなどがいっぱい、特にユウバリソウの群落には感激しました。

ユウパリコザクラの会のメンバーは手早く、ロープを張っていきます。私も少しですが手伝いました。頂上に12時でした。

1988年に夕張岳にスキー場計画が持ち上がり、地元山岳会や市民が立ち上がりユウパリコザクラの会が結成されました。粘り強い運動でスキー場を撤回させ、その後も高山植物の大量盗掘もありながら、夕張岳を守り続けてきたのがユウパリコザクラの会です。私も一会員です。

中2で夕張に転校して、なんとか夕張っ子になりたくて高2の時に始めて登った山が夕張岳でした。そんな思い入れのある山の自然を守るために、私もわずかでも役に立てたらいいなと、可能な時に夕張岳に登っています。



6.10 ミヤマアズマギク



6.10 ケエゾキスミレ



6.10
タカネグンバイ

海岸線が美しい塩谷丸山 629m



家族で最初に登った山が塩谷丸山でした。快晴の5月31日、山仲間と塩谷丸山に登りました。なだらかな斜面からジグザグ道を行くと見通しのいい草原に入ります。ここからは入り組んだ海岸線が美しく足を止めては景色を眺めつつ1時間半で頂上に到着。平日でしたが、数組の登山者がのんびりと日向ぼっこをしていました。

楽に登れるけど、大きな自然に心洗われました

泊原発の廃炉をめざして講演会の応援で各地に！

文学を愛する人も原発NO！ 旭川会場で

共同代表の小野有五さんや弁護士の市川守弘さんらが、各地で泊原発訴訟の報告会や、泊原発の危険性を伝える講演会で講師として頑張っています。事務局のメンバーが4月から増えたので、私たちも講演会の応援に各地に出かけています。ハイロの会の賛同人に多くの人になってもらい、運動の輪を広げたいですね。



6.2 著書「馬を洗って」を朗読する加藤多一さん

6月2日、旭川の三浦綾子記念館で、児童文学作家の加藤多一さんが小野有五さんと対談するというので、3人で応援に行きました。加藤さんが著書の「馬を洗って」の朗読をした後、対談。加藤さんは「出会いが人を作る。NOという人は、どんなに遠く離れていても、どこかで出会います。」加藤さんは、福島を訪れたとき、銀河通信の読者に偶然出会ったと語りました。文学を通して戦争を批判してきた加藤多一さんも、事実を伝え続ける科学者の小野有五さんも反骨の人です。文学の対談の場であっても必ず、泊原発廃炉のことを話題にし、その場で訴訟支援を訴えて下さりカンパが集まりました。

その後、見本林を散策し、夕方は、脱原発をめざす「チーム今だから」の若いメンバー達と学習会と交流会があり、幼い子どもを持つ若い母親が「原発が不安でたまらない」と語りました。真剣に世の中を変えなくてはと活動している姿に励まされました



左写真
6.2 三浦綾子記念館周辺を散策

右写真・高倉裕一さん提供 帯広連絡会の皆さんと

水俣病患者を支え続けた 原田正純さんが逝去

半世紀にわたって、水俣病の研究と被害者の診療をしてきた原田正純さんが6月11日、77歳で亡くなりました。旭川に住んでいた頃、ユージンスミスの「水俣」写真展をデパートで開催した時のことです。原田さんは胎児性水俣病の患者さんと写真展に来て下さり

オープニングは農業守ってと フォークソング 帯広会場で



撮影・高倉裕一さん
6.23 反原発を歌う宇井宏さん

6月23日、口頭弁論報告集会は、帯広市の郊外で開かれました。オープニングは農業をしながら反原発の歌を作詞作曲し歌っている宇井宏さんが「NO!NO!」!NO!と農業の農をかけて、原発NO!と歌い拍手を浴びました。農業青年でもあり、今が一番忙しい季節なのに駆けつけてくれました。廃炉訴訟の原告でもあります。



帯広駅から遠いのに関わらず83人の参加がありました。大飯原発再稼働が決まり、泊原発がどうなるのか?と関心の高さを感じました。訴状がたくさん売れ、入会者も増えました。

小野有五さんは毎回、新しい事実も折り込みながらわかりやすく泊原発の危険性について講演されています。

あなたの住む街でも出前講座します。どうぞ声をかけて下さい。山よりも泊原発ハイロ最優先で応援に駆けつけます。

講演されました。その時の印象が、弱い立場にある人の側にたって、患者さんに接する姿でした。単なる優しさではなく、水俣病患者さんを尊敬ある存在として認め、守り抜く気概を感じました。まったく偉ぶらず、笑顔でユーモアも交えて、胎児性水俣病のSさんに話しかけていたのを思い出します。心よりご冥福をお祈りします。

北海道は部分日食でした

金環日食は太陽と月、地球が一直線上に並び、地上からは金色の輪（金環）に見える現象です。5月21日、全国各地で金環日食の話題で一杯でした。

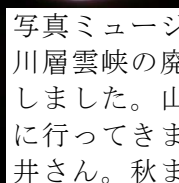
天体観測が趣味の夫は、前日に札幌東区の中学校の屋上に天文台を設置。翌日は午前4時過ぎに起きて学校へ。授業の始まる前にビデオを望遠鏡に設置し、部分日食を観測しました。江別でも空を見上げましたが、あいにくの曇り。M中学で夫が編集したビデオを昼休みに上映。生徒からは大好評だったそうです。我が家でもビデオの天体ショーを観ました。北海道で、金環日食が見られるのは18年後。その頃まで生きていたいですね。我が家に鎮座している何台も

の天体望遠鏡。何が違うのかさっぱり分かりませんが今回、日の目を見て天体望遠鏡も大

喜びでしょう。



撮影・樋口澄生
5.21 7時30分前後
順に変化していく
部分日食（下から
上へ）
場所・札幌市東区



日本山岳会の会員であり、山岳写真家である市根井孝悦さんの作品を常設展示する大雪山

写真ミュージアムが5月1日、上川層雲峡の廃校を利用して開館しました。山岳会有志でお祝いに行ってきました。館長は市根井さん。秋までは上川でご夫婦

で暮らすそうです。市根井さんが撮りためた10万点の写真から選ばれた200点余が展示されています。写真集では、見ていましたが、大雪山の雄大さ、厳しさ、美しさが、ミュージアム全体から発信されています。層雲峡に行く機会がありましたら是非、お立ち寄り下さい。山に登らない人にも、大雪山の魅力を知って欲しいです。開館期間は10月31日まで。

大雪山写真ミュージアムが開館



5.1館長の市根井孝悦さん

【追悼】小沢典夫さんと雨竜沼湿原



雨竜沼湿原と雨竜沼湿原を愛する会の良き理解者で温かく見守ってくださった元環境省大臣官房審議官・小沢典夫さんが4月1日

04.10.9~10アポイフォーラムでの小沢典夫さん（前列右から二人目）

に61歳の若さでご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

小沢さんとの出会いは偶然でした。環境省から北大法学部教授に出向された小沢さんは1997年の夏、8月25日に「マー兄ちゃん」こと北野大先生を隊長とする子供たちの環境教育「太陽の会」に参加、雨竜沼湿原を訪れ、ここでの出会いがご縁の始まりでした。2年後の1999年8月、30℃を超す猛暑の日に南暑寒荘周辺の外来植物防除活動に院生らを連れて参加、汗を流された。その後、環境省に戻られた2001年7月8日、「川口環境大臣と語るタウンミーティング」に先立つ道内8団体だけの「NGO意見懇談会」に当会が参加要請され環境行政に関して意見を述べた。川口順子環境大臣と幹部が列席、その一人に環境保健部企画課長・小沢典夫さんがいました。

北海道高山植物盗掘防止ネットワークを立ち上げる時に行政との交渉をして下さったのが事務局長の小沢さんでした。雨竜沼湿原を愛する会の会報の追悼文を佐々木純一さんの了解を得て掲載します。お世話になりました。心よりご冥福をお祈り致します。

2003年、環境審議官として「北海道の外来生物の対策会議」で来道され、8月30日（土）に雨竜泊でジンギスカンを囲み、31日（日）の当会主催のセイタカアワダチソウ駆除活動に2回目の参加、雨竜みどり少年団や滝川江部乙中学校の生徒たちと一緒に外来植物を抜き取りました。午後から湿原散策と木道迂回計画地を視察され、下山後に明日の会議のため札幌に向いました。2004年10月9日-10日、アポイ岳ファンクラブ主催のシンポ「アポイの花たち」にパネラー参加の声をかけられた佐々木だが、基調講演が小沢さんと後で聞き予期せぬ再会、同行した蓑島金次氏と3人で風呂に入り酒を飲み、今年の雨竜沼の事やアポイ岳の晩秋を楽しみました。時は経ち2008年9月、山梨県立大学国際政策学部教授に転出された小沢さんが札幌市主催の環境講演会で講演、再会の握手を交わした。環境政策のプロとして、アポイ岳と雨竜沼が好きだという小沢さんのご指導やご助言は私たちのバックボーンとなっていた。雨竜沼湿原の長年の懸念だった復路木道の迂回設置が実施された。今ある自然を保全することの大切さを教えてくれた小沢典夫氏、私たちには環境審議官である前に「小沢さん」だった。ここに一杯の感謝を込めて贈ります、「ありがとうございました」。合掌（雨竜沼湿原を愛する会・佐々木純一）

本 BOOKS



道ひとすじ 不破哲三とともに生きる

上田七加子著 中央公論新社
1500円＋税

不破哲三さんはご存知、日本共産党の委員長を長い間務めた人です。ソフトな語り口や人間的なおおらかさが好きで、私は長い間ファンです。理論書は読んでいませんが、不破さんの著書「私の南アルプス」ではのびのびと山の魅力を語っています。

妻の七加子さんについては、全く知りませんでした。どんなご夫婦なんだろうと手にしたのが本書です。

この本のテーマは二人の出会いから今日に至るまで、一貫して育まれてきた愛情です。始まりは、不破さんから七加子さんにあてたラブレターでした。「お互いにまだよく知らないから……」とためらう七加子さんに、不破さんが「譲歩して99%知らないとしても、知っている残り1%の知識で全体を知っていると断言」するのです。「すでに宇宙は動き出しているのだ」と書きました。不破さん19歳、七加子さんは20歳でした。24歳で結婚。「不破がなぜ私を選んだのかを考えると、自分が選んだ道に対して忠実に生きようとした彼が、私の中にもそういう部分を見いだしたということなのだろうと思います」。結婚後も全国各地を飛び回っていた不破さんは、手紙を七加子さんに出し続けました。

不破哲三が全編で語られています。私人の不破さんも、まったく裏表のない誠実な人であること。一度も愚痴を言ったり、忙しいと言わない。ましてや七加子さんの家事に不満をいうこともなく、どんな料理を作っても文句はいわないとか。布団のあげおろしもするということだから羨ましい。

七加子さんは学生時代は男まさりで有名でした。ギャルソンというあだながつくほど。人間は全て平等なのだから、男が出来ることは女も同じように出来るはずだと、男子寮に忍び込んだエピソードも。七加子さんが忘れ得ない、強烈な印象として記憶している、東京大空襲。火の粉を防ぎながら家族で逃げまどった体験を語り、戦争を平然と起こし、自分たちの都合で国民の命をどこまでも犠牲にし続けた体制と政治、その指導者たちに、60数年経ったいまも強い憤りを覚えると書いています。

不破さんは幼い頃、家で「床の間」というあだ名がつけられていたそうです。泣き虫で、しょっちゅう床の間に向かって泣いていたと。悲しいだけでなく、人にほめられたときなど、感情が動かされることがあるとすぐに涙腺が緩んでいたという意外な一

面を紹介しています。そんな不破さんは、旧制一高時代に寮の総代会で説明するとき生つばをのみこむばかりで声が出ず、共産党に入り初めて街頭で演説するときには「清水の舞台から飛び降りるほど緊張した」と言います。それが党のトップに上りつめ、演説や講演を山ほどこなしたのだからすごいです。何か朴訥とした温かさはそんなところから来ているのかもしれませんが。

膨大な量の論文、演説の原稿を猛スピードで書き上げる不破さんのそばで、七加子さんは、昼夜時間に関係なく清書したと語ります。同志としてお互いを理解しながら歩んできたことが、こんなエピソードからも伝わります。

七加子さんががんで倒れた時にも、公務に就く前に必ず病院に立ち寄ったという不破さん。幸せですか？と問われて、大震災で被害に遭われた方達もいるのに、単純に幸せと言えないという七加子さんの人間性に共感しました。

愉しき山旅 高澤光雄著

北海道出版企画センター2300円＋税



高澤さんは日本山岳会の仲間であり、登山史に詳しく編著書も多い。同人誌などに発表してきた山旅紀行をまとめたのが本書です。80歳を機に、今までの登山の中で印象に残った北海道、本州、海外の山旅28編が収められています。

1950年、高3の時に登った旭岳がいかに遠く厳しかったことか。東川のバスの終点から天人峡までの20kmを歩いたというのだから、今とは隔世の感があります。土砂降りの橋の下での幕営。道迷いなども体験。強風と寒さに震えながら頂上に立った喜びもつかの間、旭川商業高校（当時）の生徒を引率していた大雪山を熟知した速水さんと一緒になかったら現在がないのかも知れません。高澤さんは、旭岳で「山の怖ろしさを体験したことが、その後の登山に大いに役だった」と書いています。2度の挑戦で登頂を果たした、厳冬期の積丹半島、余別岳や、日高山脈冬季未踏ルートを求めて神威岳に登った紀行文が圧巻です。高澤さんの青春の山々が目に浮かぶようでした。

交通も不便で装備も乏しかった時代の登山は、今とは比べものにならない多くの困難があったと思いますが、だからこそ頂上に立った時の喜びはひとしおです。

1993年に高澤さんは定年を機にネパールヒマラヤトレッキングをしています。私は2008年に日本山岳会のヒマラヤ環境調査トレッキングに参加しましたので、当時と今とではずいぶん変わっていることを知りました。今は目的の山に至るまでに集落にはロッジが建ち並んでいて、テントを張る必要がないです。コーラも売っているのですから驚きでした。

深田久弥さんや坂本直行さんとの登山のエピソードも楽しかったです。深田久弥さんの名言は「読

み、歩き、書いた」だそうです。高澤さんは「読み、書いた」で余命を楽しみたいと前書きにありました。登山の大先輩。まだまだ長生きして、私たちに山にまつわる歴史を伝えて欲しいと願っています。

高澤さんとの出会いは、私が山岳会に入る以前のこと。朝日新聞が企画した利尻山登山会に参加したときでした。高澤さんは講師で私たちを引率されたのです。お互いにまだ若かったですね。

2012年6月14日

北海道民医連新聞

北海道の山の魅力は原始の香りが残っていることと、高山植物の豊富さにあります。梅沢俊さんは「夏山ガイド」シリーズや「新北海道の花」などたくさん著書



新刊紹介

梅沢 俊 著

北の花 名山ガイド

地味な植物にも心を寄せ

があります。本書は北海道の代表的な花の名山を紹介。読み物としても楽しい。それもそのはず、「たまには愛しい庭からとびだして、野生の花が持つ息吹を楽しんでほしい」との願いをこめて、「花新聞ほっかいどう」に道北の利尻山から道南の大千軒岳まで45山を連載。写真も追加して1冊にまとめました。季節ごとの花の見どころ

ろ、交通アクセス、コースマップもあり、こんなに親切で盗掘されないかしらと心配になりました。梅沢さんは「その土地、場所の環境に応じてそこにふさわしい植物がある。そんな自然の美しさに惹かれます。地味で目立たないものに美しさを見つけたら、私もある」と語っています。地味な花にも心を寄せているところがすてきです。ガイド本はたくさんありますが、北海道の高山植物の魅力を文と写真で表現した本はそうは多くはありません。北海道の花名山を是非辿っていただきたいです。(樋口みな子) (北海道新聞社 1890円+税)

内部被曝

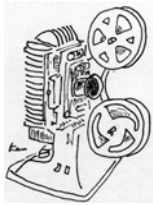
肥田舜太郎著 扶桑社724円+税

肥田医師は、広島市への原爆投下時爆心地から離れた所で往診して助かりましたが、被曝。その後、6000人

を超える被爆者を診てきました。67年間にわたる経験から、「低線量被曝・内部被曝」の本当の怖ろしさは、数年後、数十年後に影響があらわれるところだと強調しています。飲食や呼吸で体内に取り込んだ放射性物質は、内側からじわじわ体を蝕んでいくのです。広島・長崎の原爆でも、直接爆弾に被弾したわけではないのに、多くの人が原因不明の症状に苦

しみながら亡くなったと語ります。実は「高線量・短時間被曝」よりも「低線量・長時間被曝」のほうが、より細胞組織を壊してしまうという実験結果が数多くあると言います。セシウムは心筋梗塞を起こすことやアメリカの研究からエイズの発生・拡大と被曝との関係性や、学業成績の低下・粗暴性の向上などとの関連性もあると語ります。被曝というのはありとあらゆる人間の健康を脅かす可能性があると言います。

95歳の今も各地を講演して広島の惨状を語り伝え、核につながる原発はいらないと訴え続ける肥田先生の姿に感動しました。全ての原発を止めなくてはと勇気づけられました。



ル・アーヴルの靴磨き

フィンランド・仏・独 アキ・カウリスマキ監督



フランスの港湾都市ル・アーヴル。パリから流れて今はここで靴磨きをしているマルセル（アンドレ・ウィルム）は妻アルレッティ

（カティ・オウティネン）と愛犬と慎ましく暮らしています。偶然出会った密航してきたばかりの移民の少年を、やむなく自宅に匿います。母親がいるロンドンに渡りたいという少年の望みを叶えるために周囲の協力も得ながら、奔走します。

そんな時に、妻は余命宣告を医師から受けるのです。妻は夫に余命のことは秘して入院します。

『街のあかり』などのフィンランドが誇る巨匠アキ・カウリスマキ監督によるヒューマン・ストーリー。毎日を必死に生きる庶民たちの生活を描くと同時にヨーロッパとは切っても切れない関係にある難民問題についても問いかけます。

気のいい隣人たちも一緒になって、少年をロンドンに送り届けようと知恵を絞ります。市井の人々がつつましくも、助け合っているのが温かく、日本にもこんな風景が昔はあったなあと懐かしくなりました。なんとか逃げ延びてと、ハラハラしながら見守りました。

愛妻の病気も心配になります。ラストにすてきなドンデン返しが待っていました。世の中捨てたもんじゃないかと、ほのぼのと心が温かくなりました。私はこういう映画が好きです。

泊原発を廃炉にしよう！ 二次提訴します

大飯原発の稼働が決定しました。泊原発の再稼働は許しません！泊原発の廃炉をめざす会は、昨年7月7日に発足し、丁度1年を迎えます。すでに612人が原告になって裁判で闘っています。さらに大きな輪にして泊原発をハイロにしたいと思えます。是非、この機会に原告になりませんか？印紙代が高く1万円がかかります。原告希望される方には振込み用紙をお送りします。E-mail minginga@agate.plala.or.jp又はハイロの会事務所 011-594-845にご連絡ください。

高澤光雄さん「ゆしき山旅」 梅沢俊さん「北の花名山ガイド」の著書 小野有五さん「図説日本の山 自然が素晴らしい山50」を寄贈頂きました。ありがとうございました。

幸せへのキセキ

アメリカ キャメロン・クロウ監督



原題は動物園購入。幸せのキセキの題名が実にありきたりで、期待はあまりせずに観ました。

原作は、動物には素人の英国人作家が動物園付きの家を買い、人生や家族を見つめ直していくというベストセラーの実話です。大きな喪失感を抱え、バラバラになっている家族。とくに父と息子は他人へ配慮する余裕もない。そんな彼らが溝を埋めていく姿は感動的です。

LAの新聞社に勤めるコラムニストのベンジャミン（マット・デイモン）は、半年前に最愛の妻を亡くし、14歳の長男ディランと7歳の娘ロージーの子育てに追われています。反抗期で問題を起こし退学になったディラン。そして自分も衝動的に会社を辞めてしまい、ベンジャミンは心機一転のため、郊外に引っ越すこととなります。理想の家”を見つけたベンジャミンですが、その購入条件は「動物園」のオーナーになることでした。

飼育員たちと悪戦苦闘しつつ、動物園開園にこぎ着けるまでが、丁寧に描かれます。父と子、父と仲間、若い男女の、それぞれの心の交わりが丹念に描かれています。それぞれの人物を演じる俳優たちの好演が光ります。マット・デイモンの父親役、新鮮でした。7歳になる娘ローズが愛らしく演技を超えていました。

購読料をありがとうございます（敬称略）4.4~6.2

辛抱強く待っていてくれる読者があればこそ、なんとか24年書き続けることが出来ました。加齢と共に書くスピードも遅くなり、夜はとてP Cに向かう根気がなく、2週間近くかかってようやく編集を終えました。読んで頂けると嬉しいです。

高橋宜也（札幌市）カンパ含む 大野喬子（札幌市）カンパ含む 森内実江（江別市）切手も 清水和男（福島町） 則末尚大（旭川市） 福原正和（札幌市）カンパも含む 金尾誠一（富山市）カンパも含む 河村健（札幌市） 佐藤礼人（北広島市） 菅沼宏之（札幌市） 神原照子（登別市） 仲俣善雄（札幌市）カンパ含む 久野真紀子（様似町）カンパ含む 亀田法子（江別市）カンパ含む 朝日守（さいたま市） 佐藤民枝（札幌市）カンパ含む 合計49,000円は印刷と送料に使わせていただきます。ありがとうございました。